



建学発 2021-第 0050 号
2021 年 5 月 11 日

山田守建築事務所
代表取締役会長 東 清仁 様
代表取締役社長 宮原 浩輔 様



DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 250 選」
の選定、および選定建築物の歴史的価値の継承と保全について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 250 選」の選定のなかで、このたび、日本武道館（現：日本武道館大道場）が新規選定されました。本会では DOCOMOMO Japan と連携し本作業に協力しており、日本武道館の歴史的、文化的価値について十分認識する立場から、その価値の継承と保全 についてご配慮を賜りますようお願い申し上げます。 DOCOMOMO Japan は、日本におけるモダン・ムーブメント（近代運動）の建築についてその保存と記録に 関する活動を推進する学術組織で、2000 年に設立されました。本会では 1999 年、建築歴史・意匠委員会内に DOCOMOMO 対応ワーキンググループを設置し、DOCOMOMO Japan 設立のための準備活動を進めました。その後も DOCOMOMO Japan の活動を支援し、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の選定について、1999 年度に 20 件、2003 年度に 80 件、その後、毎年約 10 件を加えながら、計 238 件の建築のリストアップ を、DOCOMOMO 対応ワーキンググループを通じ DOCOMOMO Japan と協力しながら行ってきました。今回、このリストに 2020 年度に選定された 12 件と、既存選定と同敷地の建築群追加 1 件を新たに加え、そのなかで、日本武道館が新規選定されました。日本武道館が有する歴史的、文化的価値については、DOCOMOMO Japan による別紙「記録・評価書」にあるとおりですが、貴下におかれましてはその意義についてご確認いただき、現存の建物およびその周辺環境の保全、維持に格段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。なお、本会ではこの建築の保全に関して、学術的観点からのご相談をお受け致します。

敬具

山田守建築事務所

代表取締役会長 東 清仁 様

代表取締役社長 宮原 浩輔 様

一般社団法人 DOCOMOMO Japan

代表理事 渡邊 研司

日本武道館（現：日本武道館大道場）

DOCOMOMO Japan による

「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 250 選」の報告
および選定建築物の歴史的価値の継承と保全についてのご願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、DOCOMOMO Japan ではこのたび、一般社団法人日本建築学会の協力を得て、日本におけるモダン・ムーブメントの建築 250 選」をとりまとめました。そのひとつとして、日本武道館を選定しましたので報告させていただくとともに、この建築の歴史的価値の保全にご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

DOCOMOMO (= The Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement の略称、「ドコモモ」と読みます) は、モダン・ムーブメント (近代運動) の推進に寄与した建築の歴史的、文化的重要性を訴え、その記録と現存建物の保存に関する活動を展開する国際的学術組織です。1989 年にオランダで設立され、現在は本部 (DOCOMOMO International) をオランダのデルフトに置き、60 を越える国・地域が加盟して活動しています。DOCOMOMO Japan はその日本支部で、2000 年に発足しました。その重要な活動のひとつに「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の代表的作品を選定する作業があり、これまで計 238 件の建築をリストアップしてきました。今回、このリストに 2020 年度に選定された 12 件と、既存選定と同敷地の建築群追加 1 件を新たに加え、そのなかで、日本武道館が選定されました。

「モダン・ムーブメント」は 20 世紀の建築の主要な潮流のひとつで、18~19 世紀に端を発する合理主義的、社会改革的な思想や技術革新を背景に、1920~30 年代に西欧で明確な形をとりはじめ、線や面の構成による美学にもとづいた建築を多数生み出してきました。日本においても、1920 年代からその影響を受けた建築が建設され、現存している建物は日本の近代化の足跡を物語るうえで重要な文化的資産と考えられます。こうした観点から DOCOMOMO Japan では、下記の基準にもとづいて、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の選定を行なってきました。

- 装飾を用いるのではなく、線や面の構成による美学が適用されている。
- 技術の成果がデザインに反映されている。
- 社会改革的思想が見られる。
- 環境形成 (広場や建築群の構成) という観点でデザインされている。

以上のような高い文化的価値と歴史的意義についてあらためてご確認いただき、日本武道館およびその周辺環境の保全、維持に格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。なお、日本武道館が有する価値については、別紙の「記録・評価書 (Documentation Fiche)」をご参照ください。また、DOCOMOMO Japan では、この建築の保全について、必要ある場合は学術的観点からのご相談をお受けいたします。ご不明の点等ございましたら、下記問い合わせ先までご連絡いただければと存じます。

敬具

【お問い合わせ先】 DOCOMOMO Japan 事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-8-1 3 丸中ビル 7 階 (株式会社エニー内) URL: <http://docomomojapan.com/> Email: docomomo.jp@gmail.com (事務局長 大宮司勝弘)

2020 年度選定建築物 記録・評価書
Minimum Documentation Fiche 2020

0.1 建物・敷地の写真
外観



① 竣工時の外観



② 正面外観



③ 内堀からの外観



④ 組高欄



⑤ 縦格子および垂木の表現



⑥ 客席



⑦ 内観

撮影者およびクレジット: ①山田守建築作品集 ②～⑦大宮司勝弘
日時:①1964年 ②、⑥、⑦2020年 ③～⑤2018年

db
code

1.	建物・建物群・都市計画・ランドスケープ・庭園の名称・住所等	
1.1	現在名称:日本武道館大道場	3
1.2	旧名称:日本武道館	4
1.3	町名:北の丸公園	5
1.4	市・区名:千代田区	6
1.5	都道府県名:東京都	7
1.6	郵便番号:〒102-0091	8
1.7	国:日本	9
1.8	その他の住所分類(日本の場合なし):	10
1.9	建物の類別:文化施設	11
1.10	保存の条例、選定、登録文化財等指定:なし	12
2	建物の履歴	
2.1	竣工時の用途・目的:1964年東京オリンピック柔道競技会場として建設された。	13
2.2	年代:設計および竣工:1963年10月~1964年9月15日	14
2.3	設計者:山田守建築事務所	15
2.4	他協力者(構造家・エンジニア等)および施工者:竹中工務店	16
2.5	改修等変更の年代:2020年隣接して中道場の建設	17
2.6	現在の用途:文化施設(国家行事、各武道大会、コンサートホール、各学校式典)	18
2.7	現況の様子:2000~2001年に柱間に和を意識した鋼製の格子を入れる耐震補強工事が行われた。2020年に二回目の東京オリンピック会場を視野に、屋根板のステンレスへの変更やトイレや楽屋などの施設改修と隣接して地下式の中道場が増築された。いずれも創建時の意匠の保護を重視のもと、計画、施工された。	19
3	解説	
3.1	概要:1964年東京オリンピック柔道競技会場として建設された。正八角形の平面は敷地形状および全客席からの視認性の向上を目指している。本来は武道の殿堂としての目的だったが1966年のビートルズ来日以来、ミュージシャンの聖地としての意味も加えられた。年間駆動日数は350日を超えており、国内で最も使用されている文化施設である。富士山を模した屋根は日本の象徴を連想させ、頂上に掲げられたアイコンとしての擬宝珠は「玉ねぎ」としてポピュラーミュージックにも歌われている。国家行事、武道大会、コンサート、各学校の入学卒業式に使用されるなど、多くの国民から親しまれている。	20
3.2	構造・施工:地上3階、地下2階。正八角形平面のアリーナ形式の競技場。アリーナ面は地下2階にあり、観客と競技者の動線をうまく分離している。スタンドは鉄筋コンクリートで造られ、その上に載る屋根は鉄骨トラスで施工された。半地下式とすることで建物の高さを抑え、修景に配慮している。建築面積は8131.24㎡、延床面積21133.3㎡、最高高さ42m	21
3.3	周辺環境:北の丸公園の森が広がり、半地下式により低く抑えられた建物の姿は周辺環境に馴染んでいる。また旧江戸城内堀の石垣にも適合する日本的なデザインとなっている。	22
4	評価	
4.1	技術性:鉄骨トラスによる富士山を模した巨大な反り屋根はその規模から木造では不可能であるが、日本古建築の表現として鉄骨により初めて実現したものである。その頂上には排気装置があり、大空間の排気がスムーズに行えるようになっている。また建物全体が半地下となり、鉄筋コンクリート2層の階段状のスタンド(客席)はアリーナ側を支える上段の片持ち梁と、外側に向かって延ばされた片持ち梁が一体化し、天秤のような構造になって、それが外周囲のバルコニーに大きな軒下を造ることを実現している。それもまた日本古建築の表	23

現となっており、同時に利便性も獲得している。バルコニーは大量の観客を短い時間で避難させることを目的としている。地下にアリーナをおいたことで競技者と観客の動線分離が図られ合理的な計画となっている。

- 4.2 社会性:本建物は1964年の東京五輪の柔道会場として建設されたが、当時は柔道などの日本武道が国際 24
的な評価を得つつある情勢にあった。そこで日本武道の精神的な表現と北の丸公園(旧江戸城)の風雅な環
境に最も調和する建築様式が目指されている。また客席はシートピッチが80cmしかなく、文化施設としては
狭いが、これによりアリーナの競技者と客の距離が近くなり、最高14,471人収容のホールにありながら、高い
臨場感を獲得している。これが現在のこの建物の国民レベルでの評価に繋がっていると考えられる。国家式
典、武道大会、コンサート、入学卒業式の会場として国内最高レベルの稼働率となっている。
- 4.3 文化・審美性:日本の象徴富士山のシルエットを大屋根に使うことで日本武道を表現し、北の丸公園の森林 25
や旧江戸城の石垣などの周辺環境への配慮がなされている。屋根の頂部に載る日本古建築のアイコンとして
の擬宝珠、その他にもPCによる組高欄や水平連続窓にはめられた縦格子、軒天の垂木のような表現など、
日本の伝統建築にある「イメージ」を近代建築の俎上に乗せて鉄やコンクリートによって表現している。それは
決して木造の代用ではなく、鉄やコンクリートだからこそ実現した規模や構法、彫像的なデザインになってい
る。竣工時に視察に訪れた当時の皇太子は「奈良の夢殿を大きくした感じですね」、内覧して「配色の具合が
実によくできていますね」との感想を述べられたとのことである。
- 4.4 歴史的背景:富士山を模した屋根やその頂に載る擬宝珠は周辺環境への調和と日本武道のイメージの為の 26
形態であるが、その直喩的な表現手法には、誤解も少なくなかった。山田守独自の「様式」であり、「建設年代
不詳」に見える建物でもある。一方で戦後の建築アカデミーによる伝統論争で難解になってしまった当時のモ
ダニズムへの批判があるようにも思える。抽象的な高度な表現手法によるアカデミックな評価よりも東京五輪
という重要イベントに向けて、日本人や世界の一般の人々へ印象に残りやすい形を提示したことは、現代に至
ってもなお、成功している。
- 4.5 総合評価:1964年の東京五輪柔道会場として建設された。設計は日本のモダニズムを開拓した山田守 27
(1894~1966)である。正八角形の平面は競技者と観客の最短距離を目指したもので、すり鉢状のスタンドと
共に臨場感の獲得に成功している。屋根は富士山のシルエットを再現、頂上の擬宝珠を始め、各エレメントの
デザインに日本古建築のボキャブラリーを表現しており、日本武道の精神をそれらに求め、鉄とコンクリートで
表現している。断面を見ると半地下式になっており、競技者と観客の動線を分離している他、屋根の高さを抑
えることで周辺の北の丸公園の環境に馴染ませていることがわかる。現在は武道だけでなく、コンサート、入学
卒業式、国家行事にも使われ、国民的施設となっており、最大の稼働率を実現している。2020年には建物の
オーセンティシティに配慮した改修増築工事が行われた。建設当時の紙幣図案にもあった「法隆寺夢殿を
モチーフにした」との言説が流布されているが、山田自身は述べてはいない。しかしスポーツ、芸能分野の到
達目標を獲得した現代文化の重要な施設、いわゆる「聖地」となっており、まさに「現代の夢殿」となっている。

5 資料・文献

- 5.1 一次資料(初出誌)および重要資料:『新建築』,新建築社,1964,10,pp245-250 28
『山田守建築作品集』,東海大学出版会刊,1967,pp122-133
『日本武道館五十年史』,公益財団法人日本武道館,2015,3,10
- 5.2 画像に関する資料提供者: 29
- 5.3 記載者(日付): 大宮司勝弘(2021,02,28) 30

